

市町連広報

あのます  
このます  
平成25年2月号  
No.79号

地域にとけこむ児童生徒を求めて

黒石野平地区町内会

昭和44年設立のわが町内会は、盛岡市北部のアネックスカワトク東側にあり、緑が丘三丁目全域と東緑が丘の一部で構成されています。その昔この

間24回行っていきます。毎回15名前後の児童生徒が参加しますが、町内会役員・老人クラブ会員・子供会世話人の指導を受け、和やかに交流を深めながら約1時間半精いっぱい働いています。「夏祭り盆踊り大会」

町内会出身の黒石野中学校1年生(30名~40名)を対象とした「ふれあい体験学習」に、3年前から「さんさ踊り」を取り入れています。町内会員の指導のもとに2時間ほどの練習ですが、踊りも太鼓も上達の早いには驚かされます。その成果を町内会行事「夏祭り盆踊り大会」に披露していますが、生徒の参加によって大会はいっそう活況を呈し、地区民から好評を得ています。

(大沼 勝雄)



の地帯は「黒石野平」と呼ばれていたことから、この町内会の名称が生まれました。

地域には、緑が丘小学校・高松小学校・黒石野中学校の三校があります。この児童生徒と地区民のふれあいを深める事業や行事を毎年実践していますが、そのなかの主な活動を紹介します。

「資源集団回収事業」

20年以上も続けている事業で、盛岡市資源集団回収事業重量の部「優秀賞」をこれまでに11回受賞しています。毎月第1・第3日曜日の午前8時30分から、年

被災地を訪問して

本宮第一町内会

当本宮第一町内会は、本宮村時代から村の中心的な役割を担

い、行政、商業の集積した地域として発展してきました。現在は区画整理事業により町並みは整備され昔の面影は宮沢寺、泉神社、原敬記念館が昔を偲ばせるだけになりました。町内会の中心的な研修旅行も20数回を重ねる最重要な行事となりました。以下は、今年度の研修旅行の雑感です。

今回の研修旅行は、震災・大津波から1年8ヶ月を経過した三陸方面を自らの目と耳でたしかめ、そして復興の一助としてお役に立てるかどうかその意味を考え企画され、町内会から60数名の参加をいただき研修して参りました。当日は雨が心配される中、出発時はさいわい曇り空、参加者全員集い無事出発、研修の主たる宮古市田老、たろう観光ホテルに着き社長から当時の状況の説明を聞くために平均年齢?歳達が被災ホテル6階まで階段を登り社長自ら撮影したDVDを視聴し、又、田老防潮堤で現地NPOの方より当時の生々しい生き様の話聞き身震い……。午後はグリーンピア田老で昼食、休憩後宮古魚市場で各々買い物等済ませ帰路につきました。帰路途中やまびこ産直館でもアイスを食べたり買い物を楽しみ全員無事家路に着きました。

追記 たろう観光ホテルの社長は来年(25年)旧三王閣付近に新たに事業再開するとのこと、皆様ぜひご利用ください。

(浅沼 克巳)



★編集室★

今冬は雪が多く道路も凍結状態で転倒者が続出、骨折する人が例年より多いそうです。

又、インフルエンザA型が主流でしたが、これからB型がピークになるようです。既にB型患者さんが出てくるようなので充分気をつけたいものです。春はもうすぐやってきます。

(広報情報部会)

温故知新

神子田町町内会

「今この道を行く 日進堂の意を持って」

いつどこで話ッコする時神子田の名を出すとアア朝市のスカ!!といわれ、ツイ気易く成るのです。神子田の地名由来ははっきりと分りませんが巫女田とかアイヌ語でイズミコタンとか説がありますが昭和58年に東中野下道や高崩の一部が神子田に編入して神子田町が発足しました。何れにしましても神様にご縁がある事がその起りかな?と思っております。古くは藩政時代遠野や大槌への街道として町の出入り口に榊形が置かれ、その足軽御同心の衛兵が配備される神子田裏にその兵の住宅組町が造られ最近までこの辺りを新組と呼んでおりました。高崩に新山館や日進堂と云う地名もあり天正年間に南部氏と斯波氏が戦った頃の江戸時代末期(文久三年)に近代製鉄の父と呼ばれた大島高任や西洋医学の八角高遠に依って当時最先端の洋学校が開校その跡地に今日進堂の石碑が建っています。朝市も昭和53年に他所より現在地に移り地産直売場とし市民の台所を潤しています。今、町内みんながふれ合いの場として町内公民館を中心に住民相互親睦連帯を図り各種の集会を通じ先人達が積み残した偉大な文化教養を守り高め語ってこの道を進む努力をしております。

先ず行事では2月の節分で無病息災祈願、7月は武者絵の万灯に灯りをともの虫追い疫病払いの万灯まつり、盆16日は精霊流し、9月は敬老親睦会、春秋2回実施される自主防災隊の訓練など、事業としては町内会だよりの月一回発刊、古紙・びん・缶の回収を年6回町内会総出で実施しています。

(小田島忠夫)



市町連 MORIOKA 盛岡市町内会連合会広報

No.79  
平成25年  
2月号

◆特集◆  
まちづくり  
懇談会

年3回:7月・11月・2月発行

発行・編集

盛岡市町内会連合会

盛岡市若園町2-2

(盛岡市総合福祉センター)

TEL 623-4690

FAX 623-4699

印刷/杜陵高速印刷株式会社

市町連新年交賀会  
被災地復興への取組みを  
28岩手国体を盛り上げよう

1月11日、市総合福祉センターで恒例の新年交賀会が開催されました。

構成する町内会長と盛岡市長をはじめ関係団体の来賓を含む205名の出席でした。

市民歌を斉唱して、晴山会長の挨拶のあと来賓ご三方から祝辞を戴きました。

盛岡市長は、昨年は東日本大震災の「復興元年」と位置づけ、いろいろ支援業務に当たって参りましたが、今後も引き続き、県都の責任を果すべく、復興に向けた取組みを展開して参ります。

又、総合計画を推進する為、25年度は四施策を重点に各種事業を進めることとしており、中でも「生涯にわたり楽しめるスポーツ・レクリエーションライフの実現」は28年度希望郷いわて国体を市民総参加により盛り上げていくため、皆様のさらなる御支援、御協力をお願い申し上げます。

盛岡市議会議長は、先の震災の経験から地域住民の連携、住民同士の繋がりが見直されておりますが、現代の社会では地域の防災、防犯体制の確立、高齢化社会への対応など、地域住民が一体となって自らの住む地域づくりを進めることが重要であると存じます。今後とも地域社会のため、市民協働のまちづくりの推進による更なる市勢発展のため、皆様と共に全力を尽くして参ります。

桑島博盛岡市社会福祉協議会会長は、顧みますと、昨年は記録的な猛暑に見舞われたり、依然として厳しい雇用状況など、閉塞感が増した一年でもありました。

このような情勢の中で、地域社会においてますます多様化する福祉課題や生活課題の解決に日頃からご苦勞されておられることと存じます。社会福祉協議会としては地域住民の方々とともに「支えあいのまちづくり」実現の為、積極的に取り組んで参りますので一層のご指導、ご支援をお願い申し上げます。

乾杯は玉山区自治連会長齋藤勲様のご発声で行い、祝宴では山本みなみ様らの祝舞踊に総務部会員5名の三味線の伴奏等で華を添えてもらい交賀会に相応しい内容で閉会しました。



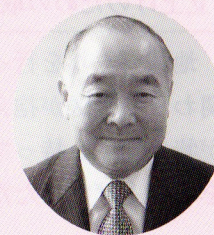
新年交賀会で挨拶する晴山会長

皆様には、輝かしい新年を迎えられて、今年が良い年になりそうな実感で、ご活躍のこととお喜び申し上げます。

「盛岡市地域協働のまちづくり」も昨年は6地区が新たに加わり、市内30地区中9地区で取組むことになりました。今年も全地区に拡大されますようご期待申し上げます。

さて、2巡目の第71回国民体育大会が2016年に開催します

年頭のあいさつ



会長 晴山貞美

ことは、平成23年3月11日発生した東日本大震災の復興として被災地の方々に伝えるだ復興に向けた国に頑張る元気の姿をともに、来関係者の方々に「おもてなしの心」でお迎えし本市の素晴らしき魅力を全国に発信する絶好の機会になるものと信じます。

現在開催が確定したものではありませんが、今年中には決定されます、盛岡では準備が出来ておりまして、谷藤市長が会長の準備委員会設立発起人会も出来ております。皆できれいなまちでお迎えしたいと思います。

# まちづくり懇談会 市と地域の協働のまちづくりのために

盛岡市では、市と地域との協働によるまちづくりを推し進め、地域の意見を市政に反映するために、「まちづくり懇談会」を開催しています。

平成25年度の開催の概要と、平成24年度に開催された様子をお知らせします。

## 平成25年度は15地区で開催予定

平成25年度の開催予定は、次のとおりです。

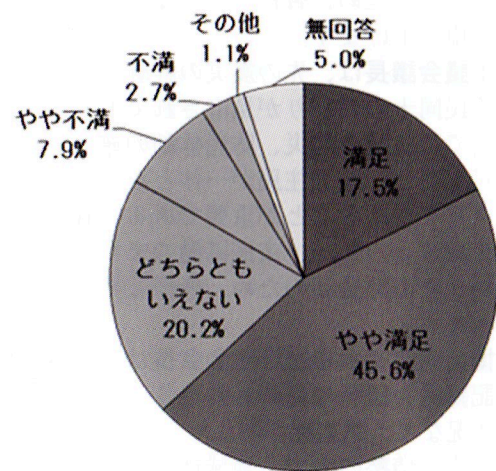
開催月日	開催地区	開催月日	開催地区
5月9日(木)	本宮	8月30日(金)	仙北
5月24日(金)	中野	10月3日(木)	飯岡
7月4日(木)	上米内	10月17日(木)	好摩
7月11日(木)	城南	10月24日(木)	杜陵
7月18日(木)	山岸	10月31日(木)	見前
7月25日(木)	太田	11月7日(木)	東厨川
7月30日(火)	玉山藪川	11月21日(木)	乙部
8月9日(金)	加賀野		

\*開催月日は、変更になる場合があります。

## 平成24年度のアンケートから

懇談会の会場で行ったアンケートの結果は、次のとおりです。

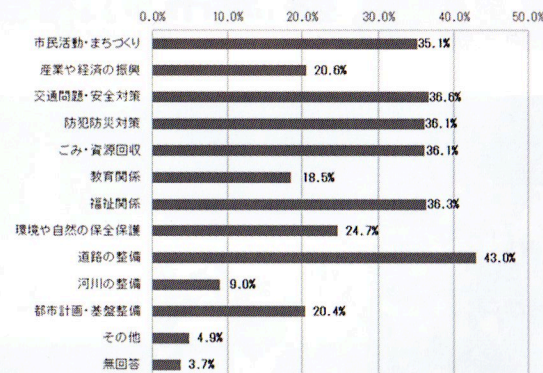
問 懇談会に参加しての感想は？



「満足」と「やや満足」を合わせると63.1%になりました。懇談事項に対する市の回答が、参加者にとって満足なものであるかどうか、この結果に反映される傾向のようです。

まちづくり懇談会に関するご意見や、市政への提言などは、盛岡市役所市長公室広聴広報課（電話626-7517（直通））へお寄せください。

問 懇談会で取り上げてほしい問題は？



日常生活に直接関係する問題や、安全安心なまちづくりのための問題に、関心が寄せられています。

## “懇談事項”は、地域から

この懇談会での主な話題は、開催する地区から出される“懇談事項”です。平成24年度の懇談会では、次のような話題が懇談事項となりました。

- ・地域資源を活かしたまちづくり協働事業への支援について
- ・新市建設計画の進捗状況と実施予定について
- ・東日本大震災の被災者支援について
- ・地域住民の組織作りについて
- ・ごみ問題について
- ・「空き家」対策について
- ・自主防災組織の立上げのための取組について

“懇談事項”は、地域づくりを行っていく上での問題や、市の施策に関わって地区が抱える特有の問題など、地区の皆さんが特に関心を持って話し合うことができるような話題を取り上げていただくようお願いします。

## 幅広い年代の方々の参加を！

懇談会の参加者は60代、70代が多数を占める地域が多いのが現状です。開催に当たっては、幅広い年代の方々による活発な実りある懇談会にするため、お忙しいとは存じますが、ぜひ若い方々にも多数参加いただきますようご協力をお願いします。

# コミュニティリーダー研修会

## 世代間交流事業「サマーフェスティバルIN北山」 北山自治会会長 鏡 保夫

盛岡市よりコミュニティリーダー研修会で、標題の事例発表の依頼を受けました。

開催の趣旨は、町内の老若男女、全ての人達の交流を図り、顔を会わせたら挨拶できる関係を作り、安心、安全な街づくりを目指してこのイベントを計画しました。

町内にある地ビール工場ペアレンに格別なご協力をいただき実施することができました。

特に子供達の両親・祖父母の方々に参加してもらるように、大人には地ビール、子供にはバーベキューを目玉にして集まってもらい、町内の世代間の交流が図られました。

- 成果として
- ①地域の方々総勢200人の参加があったこと。
  - ②子供達を中心に三世代の交流が図れたこと。
  - ③成年部の募集を図り39名の加入者があり後日、成年部会が実施されたこと。
  - ④「北山いいとこ事業」の表彰式を実施し子供達には将来も地域に親しみを深めてもらうこと。

なお、発表当日には、町内会連合会の皆様に多数ご出席いただきご指導いただきましたことに感謝いたします。

## コミュニティリーダー研修会発表要旨 もりおか八幡界隈まちづくりの会

私どもの組織は平成23年1月29日に、八幡界隈の町内会6団体、商業振興団体4団体、祭事関連団体3団体、協賛企業団体7団体による協同組織として発足しました。組織自体は結成して2年程と短いですが、ここに至るまでの間、昭和59年結成の「八青会」（町内の青年会・神輿会）、平成9年結成の「八幡町参会」（八幡三町会の協同組織）、平成18年結成の（旧）八幡界隈まちづくりの会による地域活性化活動がベースにある中で、特に平成15年に決定した八幡町通りの道路改修を大きな転機として、地域活性化に向けた取り組みが加速してきた経緯があり、これらを通じて、現組織として開花するに至ったものです。

活動目標としては、①人にやさしい商店街・飲食店街の創造、②賑やかさと安心・安全が共存するまちづくり、の2点であり、地域活性化事業による賑わいの創造と、クリーン作戦を中心とした地域保全活動を中心に活動を展開しています。

地域活性化事業については、23年9月に「もりおか八幡界隈まるごとフェスタ」と称して、道路完成記念の祝賀パレード・青空市・路上アトラクションなど、実質的には町内会が自ら企画運営した初めての大規模イベントを開催しました。また、更なる活性化を皆で考えるべく、23年11月～24年1月に「まちづくりフォーラム」を3回実施して意見集約を行いました。この結果を踏まえ、「粋と癒しの交差点☆まちなか劇場『八幡』」をまちのキャッチフレーズとし、平成24年には「八幡ほんぼこ市」と称した、八幡町通りを車両通行止めにしての青空市を、6月から11月まで月1回開催しました。また、地域保全活動としてのクリーン作戦については、地域のお祭りやイベントの前後を中心に、これまで7回実施しております。

今後は、門灯の整備、由緒板（いわればん）の作成、空き店舗調査等を実施し、地域活性化にさらに弾みをつけていくとともに、中長期的には、地域住民が主役の街を皆で造っていくべく、地域の合意形成をしっかりと

りと行ったうえで、昼の商店街の再生、および昼と夜の二面性を持ったまちづくりを目指して、息の長い活動を展開してまいります。



## インターネットを活用した地域活動について 住みよい街づくり委員会 中村喜一

山岸地区における、世帯間コミュニケーションツールとしてのネット活用の試みと現段階の成果、今後の目標について、以下の観点から発表をさせていただきます。

インターネット推進組織をどのように運営するか？  
推進組織は、山岸地区町内会連合会とは別組織とし、連合会公認のもと広報活動の一部を受託する形式をとる事といたしました。理由としては、活動内容の性質上、専門スキルを有する若手メンバーの意見、主張を最大限取り入れ、組織構成を柔軟に変化させる必要性が挙げられます。既存町内会組織の構造から離れ、組織をプロジェクト毎に責任者を設けるプロジェクト型組織として構成し、組織の可変性を高める事でそれを実現する事を目指しています。同時に委員会が独自に運営資金の調達を行う事により運営の自由度を確保する事も考慮しています。

なぜ、町内会にインターネットが必要なのか？  
共働き世帯の増加等、労働環境やライフスタイルの変化により、町内会構成世帯が時間と場所を定めてコミュニケーションを取ることが、だんだん困難になってきている現状が挙げられます。会議や説明会の場を物理的空間からインターネットによる電子的空間へ広げる事により、現状の問題の解決を図る事やこれまでは考えられなかった全員参加型の町内会運営も将来、可能となるのではないかと考えています。

インターネットと町内会、どうやって組み合わせるか？  
インターネットにより出来上がった電子空間内で、新たに町内会組織を構成する事は、かなり困難であると考えています。それを想定した場合、既存の町内会の組織構造を大幅に変化させる必要があると思われるからです。私たちは、既存の町内会組織をそのまま電子空間に広げる町内会グループウェアを想定しております。その方法だと既存町内会の活動と同時にシステムの作成が可能と考えられるからです。そう考えた場合、現段階ではまず、地域内でIT活用のスキルを有するメンバーの募集と組織化、また、早い段階で町内会がメリットとして感じ取ってもらえるシステムを作り上げる事が必要と考えました。

実現されたシステムと今後の目標  
まず、山岸町内会連合会ホームページ「うえぶ山岸」を開いたしました。又、検索サイトへの登録も同時に行い、「山岸連合会」のワードで検索する事が可能となりました。編集更新に関しては、ホームページ全体は委員会で作成いたしましたが、サイト内のページは各町内会で担当を決め編集更新をってもらう仕組みを作りました。ホームページの他には、メンバーリストのシステムを作成し、委員会メンバー同士の打ち合わせや連絡は原則、このシステムで行う事にしました。メンバーリストは現在、着々と登録者数を増やしています。今後の目標としては、サイト編集スキルを持つメンバーの募集や携帯端末、スマートフォン等への対応を考えております。